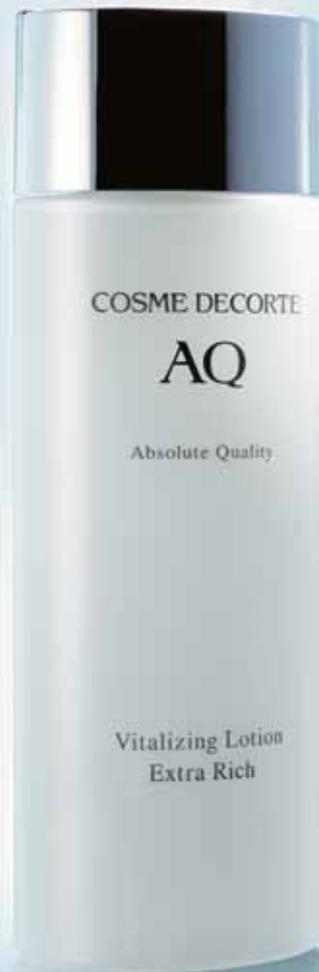


2 0 0 8

社
会
・
環
境
報
告
書

KOSÉ SUSTAINABILITY REPORT





最先端の研究成果を社会のために役立てたい

株式会社コーセイ
代表取締役社長 小林 一俊

K. Kobayashi



優れた化粧品をお届けするために

2007年10月、化粧品業界で初めて、コーセーは東京大学 大学院薬学系研究科の中に共同研究室を開設しました。今、社会的に注目されている産業界と大学などの研究機関とのコラボレーション、いわゆる産学連携の新しい形ということが出来ます。

東京大学をはじめとして様々な研究機関との共同研究は、コーセーも以前から積極的に進めてきました。しかし、研究室そのものを大学の中に、共同で作ることは、相互協力による研究体制をより強化していくことを表すものです。

コーセーは1946年に創業した会社ですが、その頃より化粧品の開発には力を注いできました。それは、創業者である小林孝三郎が、「優れた品質の化粧品をお客さまにお届けしたい」という強い信念を持っていたからです。60年以上にわたって、コーセーは化粧品のみを中心とする事業を展開してきましたし、グループ企業が増えた現在でもその基本は堅持しています。

コーセーグループの研究開発力は、業界内外から「品質のコーセー」「開発力のコーセー」と高い評価をいただいています。過去には化粧品業界で初めて2ウェイトタイプのファンデーション、パウダータイプのファンデーション、美容液などを開発し、社会に広めてきました。特に美容液と呼ばれる化粧品は、コーセーが開発した新しいジャンルの化粧品ですが、今では世界中の化粧品会社が発売するようになりましたし、女性のスキンケアにおいても中心的なアイテムのひとつになっています。

このように、過去に数々の実績を上げているコーセーの研究部門ですが、さらに優れた化粧品を開発してお客さまにお届けするだけでなく、私たちが研究した成果をより多くの人々の健康的で豊かな生活のために役立てることを目指して、日本でも最高レベルクラスの研究機関と手を組んだわけです。

コーセーを取り巻く人々との共生を

現在、私がコーセーグループの社員に対して提案しているのは、「良い商品を 良いお店で きちんと売る」という活動理念です。企業といえど社会の一員である限り、お客さまはもとより、お取引先の皆さま、株主の皆さま、そして世界中の人たちなど企業を取り巻くステークホルダーの皆さまと無関係では存在できません。私たちは企業の本分である化粧品の分野で、お客さまにとって一番良い化粧品を創るための努力を惜しまず、お客さまに化粧品を手渡す場である化粧品店が「良いお店」であるようにお手伝いをし、お客さまがひとつの化粧品を使い終わるまでフォローのできるような「きちんとした売り方」ができるような企業でありたいと思っています。

そして、このような活動の積み重ねによって、企業は広く社会から信頼されるようになるのだと考えています。

もちろん、優れた化粧品をお届けすることだけが全てではありません。コーセーグループは行動指針として「正しきことに従う心」という創業者の言葉を掲げていますが、地域社会や国際社会への貢献、かけがえのない地球環境を守るための活動、企業と社員が一丸となった遵法への取り組みなど、多くの皆さまとの共生を第一にして行きたいと考えています。今回の東京大学に共同研究室を設置したこともその一環でございますが、今後とも幅広い活動で皆さまのご期待にお応えしてまいりたいと思いますので、よろしくご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。